

平成29年2月8日

日本学術会議

科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会

(提言)「第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン2017)」

1 現状及び背景

学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープランは、科学者コミュニティの代表としての日本学術会議が、学術全般を展望し、かつ体系化しつつ、各学術分野が必要とする大型研究計画を網羅するとともに、我が国の大型研究計画のあり方について、一定の指針を与えることを目的として策定するものである。2010年、2011年、2014年に策定されたマスタープランのいずれもが、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に有効活用されていると考える。このたび、策定方針に関する科学者コミュニティからの意見等を踏まえ、マスタープラン2014の改定を行い、「第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン2017)」を策定した。

2 提言の内容

学術大型研究計画は、長期(5~10年あるいはそれ以上)の実施期間と総額数十億円を超える予算規模を有し、学術のビジョンや体系に立脚した、各学術分野が必要とする大型施設計画若しくは大規模研究計画である。大型施設計画は、最先端の研究を切り開くことを目的とし、科学者コミュニティの合意の下に、大学共同利用機関等が主体となって大型施設及びそれに付随する装置や設備を建設・整備し運用する計画であり、その施設は、コミュニティの研究者によって共用される。大規模研究計画は、分野の研究者が一致して認める重要課題について、長期間にわたって多くの研究者を組織し観測や研究を推進する、あるいは大規模なデータ収集組織やデータベースを構築し、その効果的利用を推進する等、大きな規模の計画的研究の展開によって新たな知を創造する計画である。

学術大型研究計画の提案の公募を行った。公募の対象は、区分Ⅰ(新規応募計画及びマスタープラン2014区分Ⅰ掲載の計画)と、区分Ⅱ(マスタープラン2014に掲載され、かつ現在実施中・進行中の計画)とした。本分科会は、区分Ⅰ(163件)と区分Ⅱ(16件)の学術大型研究計画と、区分Ⅰの計画から選定した28件の重点大型研究計画からなるマスタープラン2017を策定した。重点大型研究計画は、学術大型研究計画の中でも特に優先順位が高く、国や地方自治体等によって予算化され、可及的速やかに推進されるべきである。科学者コミュニティのボトムアッププロセスによって策定されたマスタープラン2017が、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に活かされるよう提言する。